



奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター

(奈良県保健研究センター内) Nara IDSC

今週の概要

- 第 17 週の感染症情報
- 気になる話題：風しん患者数について

⊕ 第 17 週の感染症情報 (4 月 22 日(月)~4 月 28 日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	4.91	→~↓	→	→~↓	→
2	インフルエンザ	2.05	→~↓	→~↓	→~↓	→~↓
3	水痘	0.80	→	→~↑	→	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.77	→~↑	↑	→~↓	↓
5	突発性発しん	0.34	→	↑	↓	→~↑

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は195例で、前週報告の179例から。やや増加。上位5位疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③A群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤突発性発しんの順。A群溶連菌咽頭炎の報告数(22例)は、増加。水痘の報告数(19例)も、増加。感染性胃腸炎の報告数(86例)は、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数(7例)は、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数(45例)は、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；26例、郡山HC管内；19例の計45例、定点当たりの報告数は1.67だった。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点から、流行性角結膜炎が各々1例ずつ計2例報告された。また、郡山HC管内基幹定点から無菌性髄膜炎の報告が、1例(10~14歳児)あった。

(村井 記)

県中部地区概況 報告数は 139 例で、前週報告の 211 例から減少。上位 5 位疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④RS ウイルス感染症、⑤A 群溶連菌咽頭炎の順。水痘の報告数(9 例)は、やや増加。RS ウイルス感染症の報告数(5 例)も、やや増加。インフルエンザの報告数(61 例)は、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数(53 例)は、ほぼ半減。A 群溶連菌咽頭炎の報告数(4 例)は、やや

減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、桜井 HC 管内；14 例、葛城 HC 管内；47 例の計 61 例、定点当たりの報告数が 2.77 と 2 週連続で増加した。桜井 HC および葛城 HC 両管内基幹定点と眼科定点からの報告は、すべてなかった。
(村井 記)

県南部地区概況 報告数（第 16 週→第 17 週）は 77 例→47 例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(57 例→33 例)、②インフルエンザ(9 例→7 例)、③咽頭結膜熱（1 例→3 例）、④突発性発疹(2 例→3 例)、⑤A 群溶連菌咽頭炎（5 例→1 例）であった。

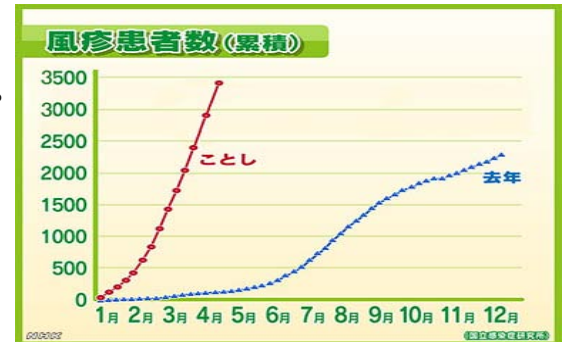
(柳生 記)

感染症情報センターホームページアドレス
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



今年の奈良県風しん患者、すでに昨年1年間の1.7倍

国立感染症研究所は23日、今年の風しん患者数の累計が14日までで4068人になったと発表しました。最も多かった都道府県は、東京、大阪、神奈川、兵庫で首都圏が約65%、京阪神地区が約20%と都市部が中心ですが、奈良県でも徐々に患者が増加しています。



(国立感染症研究所資料)

本県の患者届出数、年齢分布、月別推移、地域

(患者届出数)

奈良県感染症情報センターの集計では昨年1年間で18名の届出数であったものが、すでに今年31名の届出があり昨年1年間の**1.7倍の増加**になっています。

(患者年齢分布、月別発生推移)

1月から4月の間に発生した患者は、男性22名、女性9名と男性に多い傾向です。また、男性の最多年齢層は30～39歳が8名(36%)と女性(最多年齢層：20～29歳5名(42%))とは少し異なる結果です。これは30代後半以降の男性は予防接種対象でなかったり、30代前半は個別接種対象であったりが原因と考えられています。

月別発生推移は1月0名、2月2名、3月11名、4月18名と3月以降に大幅に増加しています。過去の流行からは5から6月がピークのことが多く感染は**さらに拡大する恐れ**もあり、ご注意ください。

男 性		女 性	
20歳未満	1名 (5%)	20歳未満	1名 (11%)
20～29歳	7名 (32%)	20～29歳	5名 (42%)
30～39歳	8名 (36%)	30～39歳	2名 (16%)
40～49歳	4名 (18%)	40～49歳	0名 (16%)
50歳以上	2名 (9%)	50歳以上	1名 (11%)

(発生地域)

患者発生地域は、吉野および内吉野保健所管内を除く郡山、葛城、桜井保健所管内および奈良市保健所管内で同程度の発生が見られています。